

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2008年第8週
(2月18日～2月24日)

- * 2008年2月27日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「ペニシリン耐性肺炎球菌感染症」も掲載しています。

平成20(2008)年2月28日発行

編集・発行

東京都医師会感染症予防検討委員会
東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2008年8週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		5週	6週	7週	8週	年累計	8週	年累計
一 類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ベスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二 類	急性灰白髄炎							
	結核	53	79	48	55	498	279	2966
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
三 類	コレラ							1
	細菌性赤痢	1			1	10	2	44
	腸管出血性大腸菌感染症	1			3	6	12	101
	腸チフス	1				3	2	7
	パラチフス					1	1	4
四 類	E型肝炎				1	2		6
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	2			3	7		32
	エキノкокクス症							4
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病		1			4	1	38
	デング熱		1			3	2	10
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ							
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							1
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア					3	1	5
野兔病								
ライム病								
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	6	3		1	12	12	118	
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		5週	6週	7週	8週	年累計	8週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	4	5	1	26	11	108
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	2		1	1	5	4	33
	急性脳炎 **		1		1	5	3	37
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病						2	17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1		5	1	14
	後天性免疫不全症候群	12	13	7	5	71	18	166
	ジアルジア症	1				2	1	7
	髄膜炎菌性髄膜炎						1	2
	先天性風しん症候群							
	梅毒	3		1	4	18	13	88
	破傷風					2	2	7
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1			1	2		7
風しん	2		3		7	4	66	
麻しん	46	49	56	77	286	370	2638	
指定	インフルエンザ (H5N1)							
2008/2/27集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 55件 肺結核37件、その他18件で、推定感染地は国内52件、不明3件であった。年齢は20歳代6件、30歳代5件、40歳代5件、50歳代5件、60歳代11件、70歳代11件、80歳代8件、90歳代4件であった。70歳代1件の死亡例が報告されていた。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 ソンネで、推定感染地はインドネシア、感染経路は不明であった。
腸管出血性大腸菌感染症 3件 すべて有症状者で、血清型・毒素型はO157(VT型不明)2件、O抗原不明(VT2)1件、年齢は10歳代2件、20歳代1件であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 推定感染地は国内で、豚肉喫食との関連が疑われている。
A型肝炎 3件 推定感染地は国内1件、インド1件、マレーシア1件で、推定感染経路はいずれも飲食物による経口感染である。国内感染の1件はカキ生食との関連が疑われている。
レジオネラ症 1件 肺炎型で、患者は80歳代男性。推定感染地は国内で、感染経路は不明。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 1件 腸管アメーバ症で、推定感染地は国内、感染経路は不明であった。
ウイルス性肝炎 1件 B型で、推定感染地は国内。異性間性的接触による感染が疑われている。
急性脳炎 1件 患者は30歳代で、推定感染地は国内、病原体は不明であった。
後天性免疫不全症候群 5件 無症候キャリア4件、AIDS 1件で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路は性的接触4件(同性間3件、異性間1件)、不明1件であった。
梅毒 4件 早期顕症梅毒1期2件、無症候梅毒2件で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路はすべて性的接触(異性間2件、性別不明2件)であった。
バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1件 腹水からE. casseliflavusが検出され、バンコマイシンのMIC値が16 µg/ml 以上であることが確認されている。術後腹膜炎との関連が疑われている。
麻しん 77件 麻しん(検査診断例)18件、麻しん(臨床診断例)56件、修飾麻しん(検査診断例)3件で、年齢は10歳未満9件(うち5歳未満6件)、10歳代29件、20歳代27件、30歳代10件、40歳代1件、50歳代1件であった。麻しん含有ワクチン接種歴は無し37件、1回14件、不明26件であった。なお、2008年第7週で報告した麻しん含有ワクチン接種歴2回の症例のうち、1件が検査診断の結果取り下げとなった。

定点把握対象疾患 報告数 2008年8週

定点種別	対象疾患	2008年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		5週	6週	7週	8週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	16	23	15	14	0.09	149	150
	咽頭結膜熱	25	39	19	37	0.25		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	277	361	307	371	2.49		
	感染性胃腸炎	1,509	1,589	1,612	1,999	13.42		
	水痘	160	176	157	183	1.23		
	手足口病	9	10	5	15	0.10		
	伝染性紅斑	28	22	17	20	0.13		
	突発性発しん	79	105	75	77	0.52		
	百日咳	2	2	0	2	0.01		
	ヘルパンギーナ	3	3	2	2	0.01		
	流行性耳下腺炎	32	29	48	44	0.30		
	不明発しん症(注1)	6	9	5	10	0.07		
	MCLS(川崎病)(注1)	6	0	0	0	0.00		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	3,052	2,371	1,568	1,516	5.26	288	290
眼科	急性出血性結膜炎	3	2	1	1	0.03	39	39
	流行性角結膜炎	16	16	18	20	0.51		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	0	0	0	0	0.00	24	24
	無菌性髄膜炎	0	0	1	0	0.00		
	マイコプラズマ肺炎	2	6	5	5	0.21		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0.00		
2008/2/27集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 高病原性鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加した。第7週まで4週連続で微増していたが、第8週は増分が比較的大きくなっている。2007年以前の同時期の傾向とは異なっており、今後の推移に注意が必要である。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は微減した。全国的な傾向と比較すると、このまま終息する可能性が高いと思われるが、今後の推移に注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

みなと保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:72名うち ロタウイルス 8名、アデノウイルス 1名

目黒区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:9ヶ月男児、1歳女児はロタウイルス。

世田谷保健所管内定点医療機関

- ・胃腸炎が急増した。

北区保健所管内定点医療機関

- ・インフルエンザより、むしろノロウイルス類による感染性胃腸炎が多い。

* インフルエンザに関するコメントは13～14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2008年8週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	3			14	5			3		
～11か月	6	2	1	110	15		1	34		
1歳	4	9	5	260	25	6	2	29		1
2歳	1	5	12	203	23		2	6		
3歳		9	40	150	30	2	4	1		
4歳		1	49	179	26	3	6	2		1
5歳		4	61	142	21		4			
6歳			39	123	17	2				
7歳		1	52	121	8		1	1		
8歳		3	27	99	5	1		1		
9歳		2	27	89					1	
10～14歳			35	184	3	1				
15～19歳			1	36	1					
20～29歳		1	22	289	4				1	
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	14	37	371	1999	183	15	20	77	2	2
先週比	-1	18	64	387	26	10	3	2	2	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		1		4		1
～11か月	1			20		
1歳	2			74		
2歳	2	2		69		
3歳	11	3		84		1
4歳	2			118		
5歳	10			132		
6歳	1	2		123		
7歳	1			107		
8歳	5			78		
9歳	5	1		53		
10～14歳	4			176	1	
15～19歳				61		2
20～29歳		1		111		4
30～39歳				158		7
40～49歳				90		1
50～59歳				39		3
60～69歳				14		1
70～79歳				5		
80歳以上						
合計	44	10		1516	1	20
先週比	-4	5		-52		2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2008年8週

	風しん	麻しん
0歳		4
1歳		1
2歳		1
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		1
7歳		
8歳		
9歳		2
10～14歳		8
15～19歳		21
20～29歳		27
30～39歳		10
40～49歳		1
50～59歳		1
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		77

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2008年8週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	2			13	4	1				
中央区			2	19	3			1		
みなと	1	2	10	101	13			2		
新宿区			17	67	7					
文京			7	2						
台東	1	1	10	40	2		1			
墨田区	2		9	18	3			1		
江東区			6	103	6			5		
品川区		4	17	140	3	1		4		
目黒区		3	2	22	1	1		3		
大田区		9	18	146	10	1	2			
世田谷			9	112	3		1	3		
渋谷区			1	45		1		1		1
中野区			8	98	9	1		3		
杉並	1	4	6	71	5			2		
池袋			5	29	2	1		1		
北区		1	1	53	3		1	3		
荒川区			14	29	2		1	1		
板橋区			1	46	2		1	1	1	
練馬区			14	47	5			3	1	
足立			5	72	14			5		
葛飾区			6	39	2			1		
江戸川	1	1	35	104	4		1	7		
八王子市	4	4	49	142	27	1	4	5		
西多摩			10	57	2		1	3		
南多摩		1	6	28	2	6	1	6		
町田			78	140	14		4	4		
多摩立川		1	2	31	5					
多摩府中			5	62	11	1	1	2		
多摩小平	1	6	17	122	19		1	10		1
島しょ	1		1	1						
東京都合計	14	37	371	1,999	183	15	20	77	2	2

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2008年8週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田				4		
中央区				21		3
みなと		1		28		
新宿区	4			37		2
文京	2			28		1
台東	1			22		
墨田区				33		
江東区	1			42		
品川区				23		
目黒区	2			17		
大田区	1	2		68		
世田谷	5	1		92		1
渋谷区				17		
中野区	1	2		48		
杉並				60		
池袋	2			34		
北区	1			27		1
荒川区				31		2
板橋区				39		
練馬区	2			72		3
足立	4			37	1	
葛飾区	3			79		
江戸川	1			65		
八王子市	1	2		56		3
西多摩				64		
南多摩				42		
町田	6	1		153		
多摩立川	1			47		
多摩府中	6			133		
多摩小平		1		92		4
島しょ				5		

東京都合計	44	10	-	1,516	1	20
-------	----	----	---	-------	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		3
文京		2
台東		
墨田区		1
江東区		1
品川区		3
目黒区		1
大田区		3
世田谷		6
渋谷区		3
中野区		5
杉並		1
池袋		
北区		2
荒川区		
板橋区		8
練馬区		2
足立		1
葛飾区		3
江戸川		2
八王子市		4
西多摩		5
南多摩		3
町田		5
多摩立川		4
多摩府中		2
多摩小平		7
島しょ		

東京都合計	-	77
-------	---	----

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2008年8週

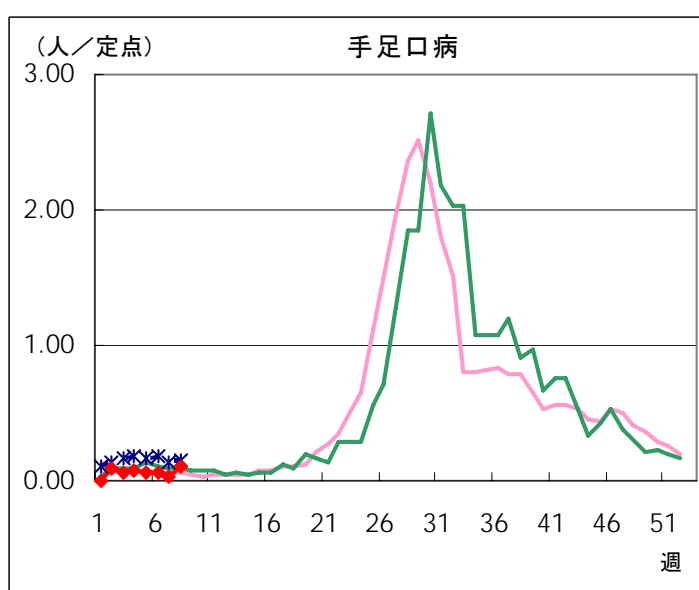
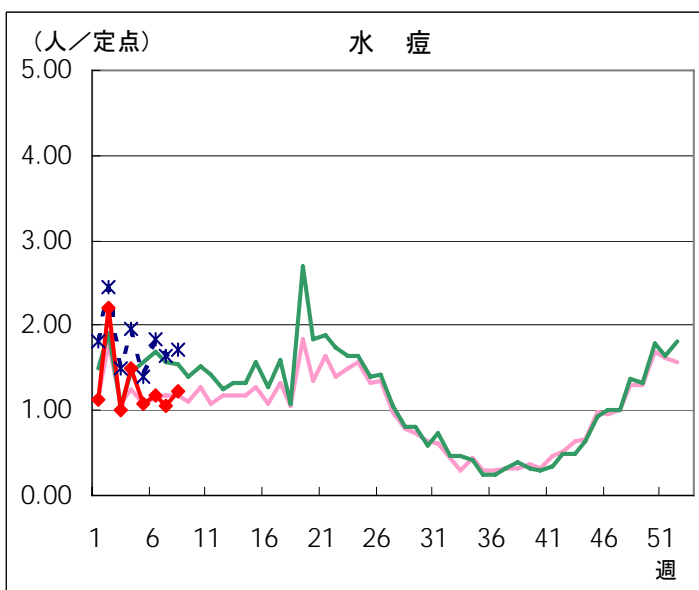
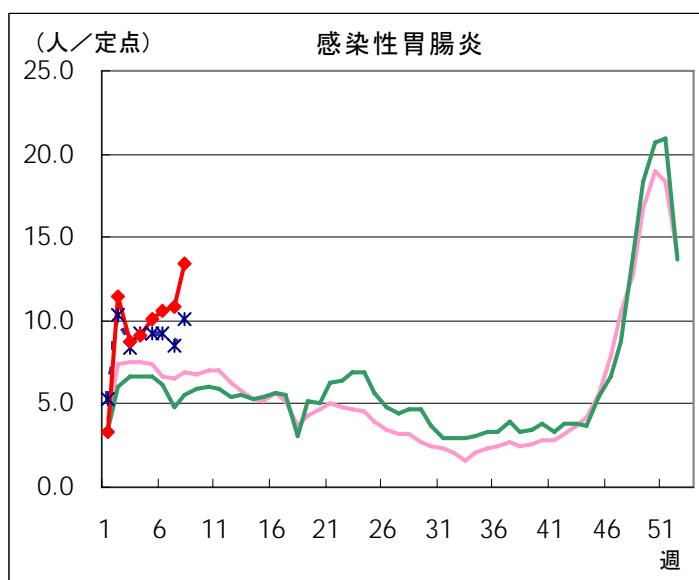
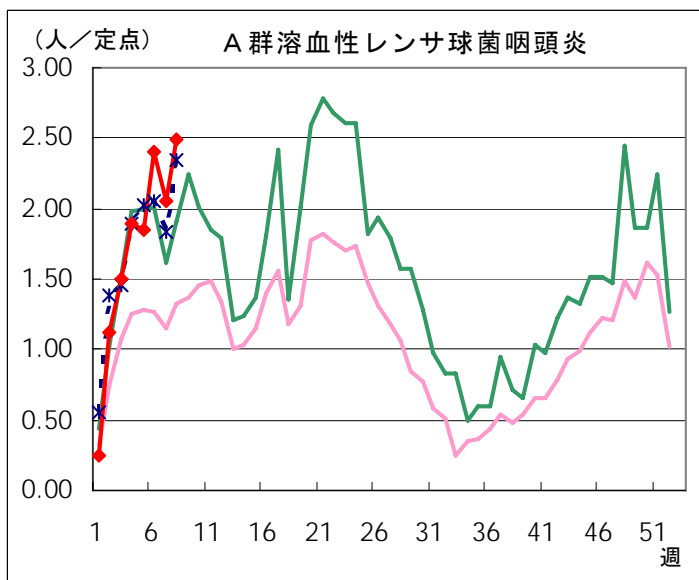
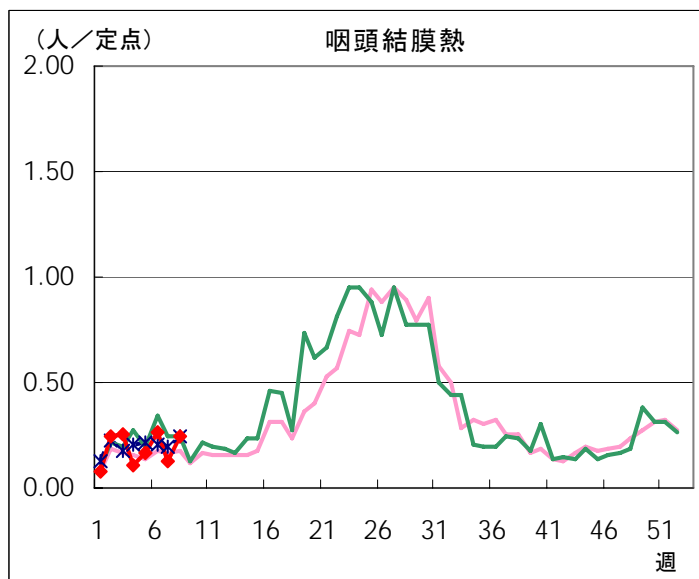
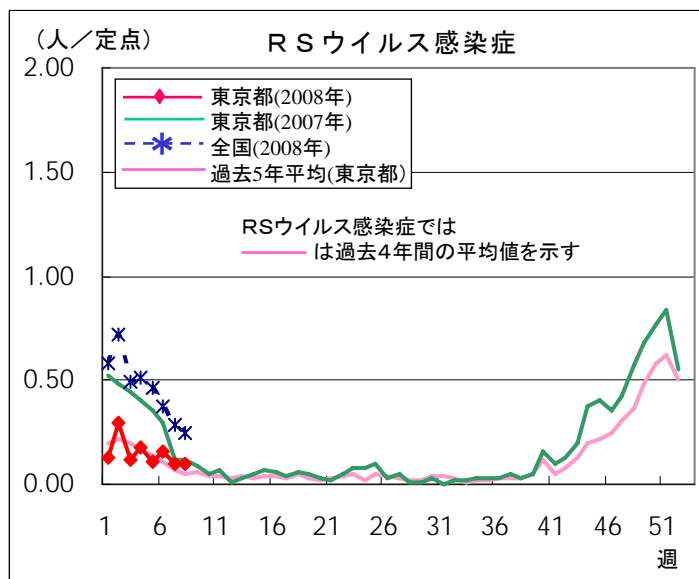
定点種別	小児科										小児科	
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	不明発しん症
千代田	0.50			3.25	1.00	0.25						
中央区			0.67	6.33	1.00			0.33				
みなと	0.17	0.33	1.67	16.83	2.17			0.33				0.17
新宿区			2.83	11.17	1.17						0.67	
文京			2.33	0.67							0.67	
台東	0.33	0.33	3.33	13.33	0.67		0.33				0.33	
墨田区	0.67		3.00	6.00	1.00			0.33				
江東区			1.50	25.75	1.50			1.25			0.25	
品川区		0.67	2.83	23.33	0.50	0.17		0.67				
目黒区		1.00	0.67	7.33	0.33	0.33		1.00			0.67	
大田区		1.13	2.25	18.25	1.25	0.13	0.25				0.13	0.25
世田谷			1.13	14.00	0.38		0.13	0.38			0.63	0.13
渋谷区			0.25	11.25		0.25		0.25		0.25		
中野区			1.33	16.33	1.50	0.17		0.50			0.17	0.33
杉並	0.17	0.67	1.00	11.83	0.83			0.33				
池袋			1.00	5.80	0.40	0.20		0.20			0.40	
北区		0.25	0.25	13.25	0.75		0.25	0.75			0.25	
荒川区			7.00	14.50	1.00		0.50	0.50				
板橋区			0.17	7.67	0.33		0.17	0.17	0.17			
練馬区			2.80	9.40	1.00			0.60	0.20		0.40	
足立			1.00	14.40	2.80			1.00			0.80	
葛飾区			1.50	9.75	0.50			0.25			0.75	
江戸川	0.20	0.20	7.00	20.80	0.80		0.20	1.40			0.20	
八王子市	1.00	1.00	12.25	35.50	6.75	0.25	1.00	1.25			0.25	0.50
西多摩			2.00	11.40	0.40		0.20	0.60				
南多摩		0.25	1.50	7.00	0.50	1.50	0.25	1.50				
町田			19.50	35.00	3.50		1.00	1.00			1.50	0.25
多摩立川		0.17	0.33	5.17	0.83						0.17	
多摩府中			0.50	6.20	1.10	0.10	0.10	0.20			0.60	
多摩小平	0.17	1.00	2.83	20.33	3.17		0.17	1.67		0.17		0.17
島しょ	1.00		1.00	1.00								
東京都	0.09	0.25	2.49	13.42	1.23	0.10	0.13	0.52	0.01	0.01	0.30	0.07

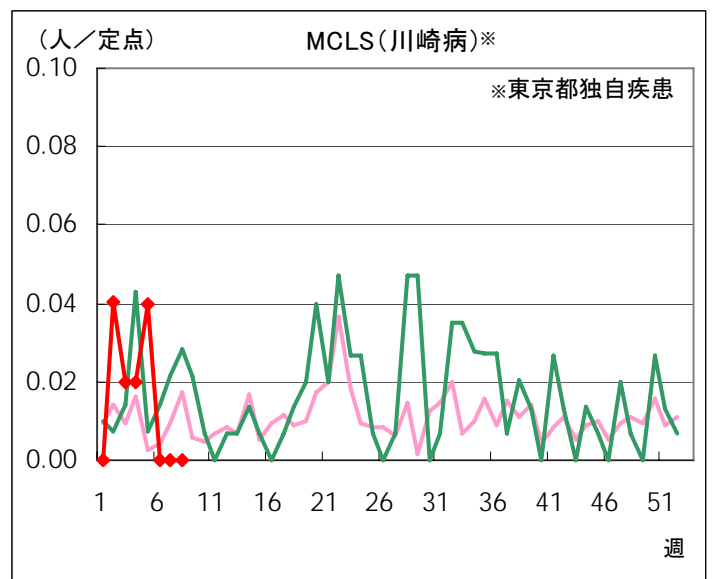
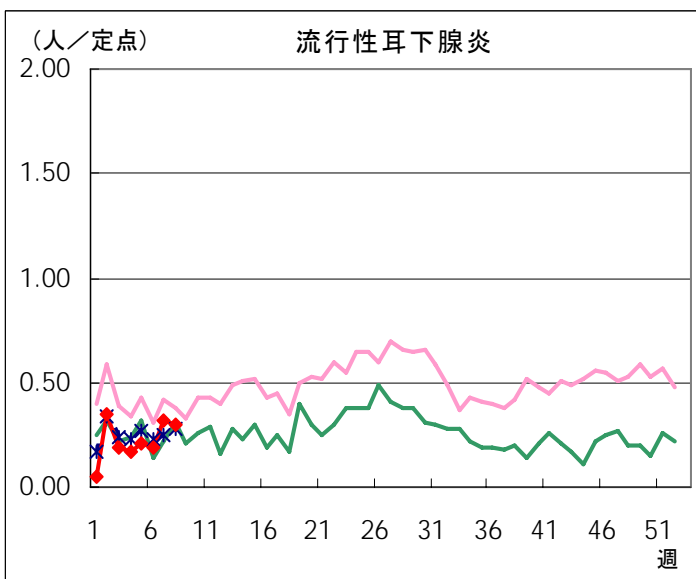
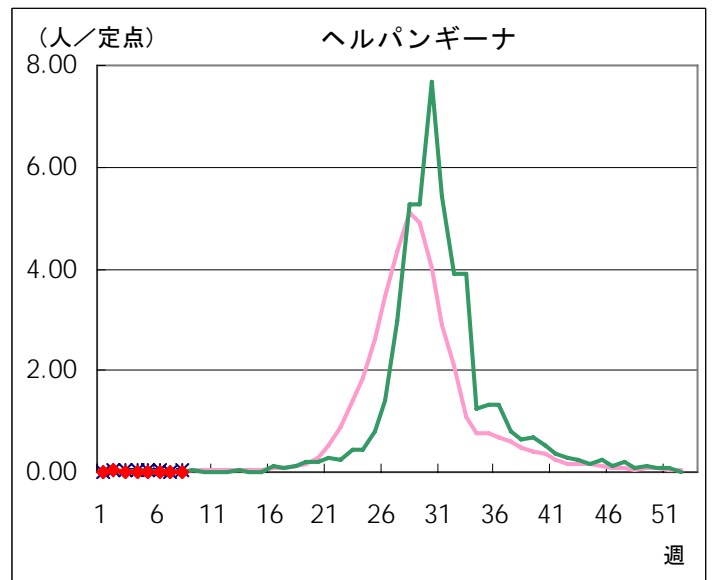
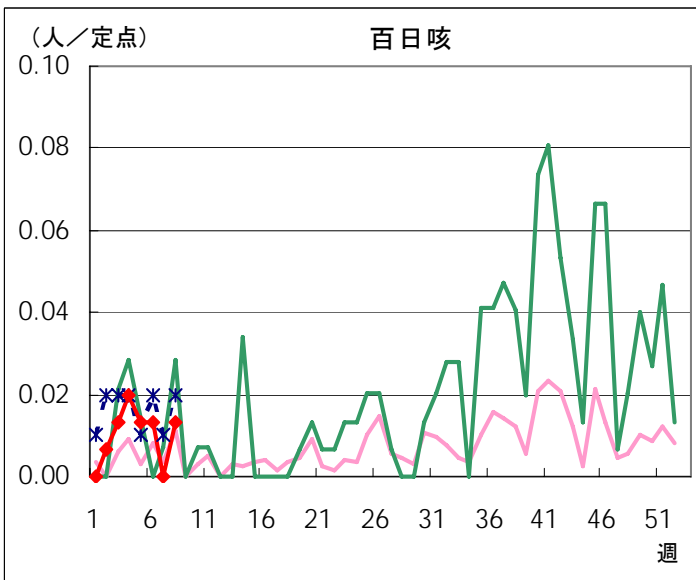
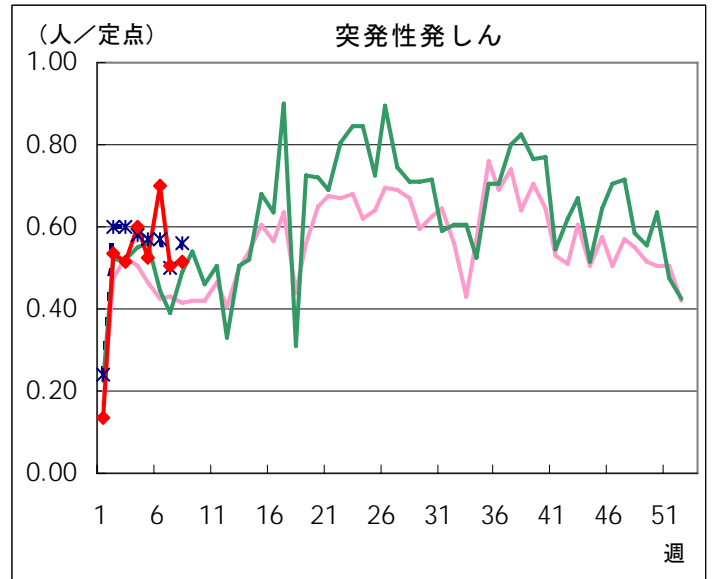
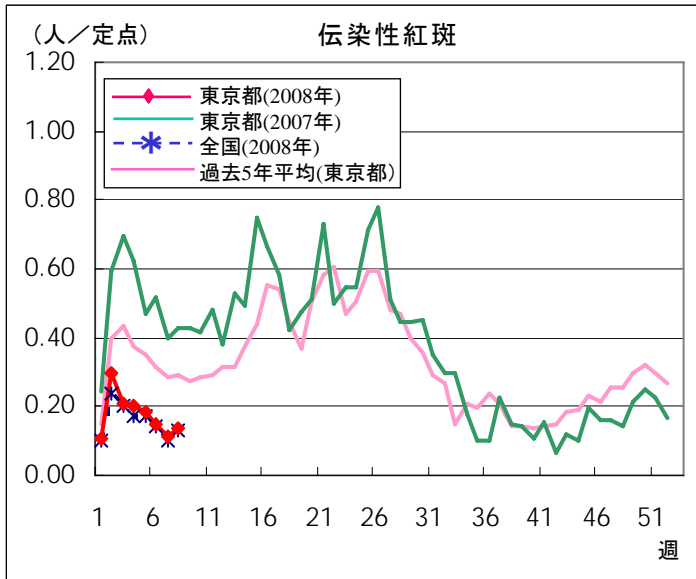
定点種別	MCLS (川崎病)	インフルエンザ	眼科	
		インフルエ ンザ	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎
千代田		0.80		
中央区		5.25		3.00
みなと		3.50		
新宿区		4.11		1.00
文京		5.60		1.00
台東		4.40		
墨田区		5.50		
江東区		4.67		
品川区		2.30		
目黒区		2.83		
大田区		4.53		
世田谷		6.13		0.50
渋谷区		2.83		
中野区		5.33		
杉並		5.00		
池袋		4.25		
北区		3.38		1.00
荒川区		7.75		2.00
板橋区		3.25		
練馬区		6.00		1.50
足立		3.08	0.50	
葛飾区		8.78		
江戸川		5.42		
八王子市		5.60		1.50
西多摩		7.11		
南多摩		4.67		
町田		17.00		
多摩立川		3.62		
多摩府中		6.33		
多摩小平		6.57		2.00
島しょ		2.50		

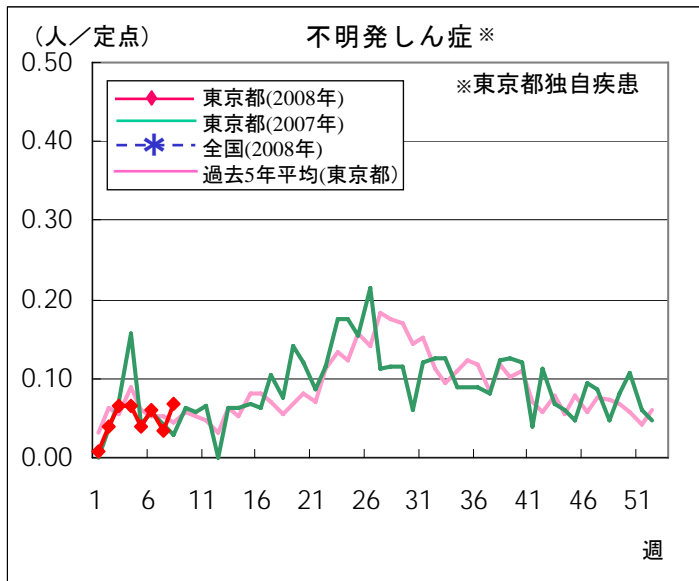
東京都	-	5.26	0.03	0.51
-----	---	------	------	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2008年8週現在

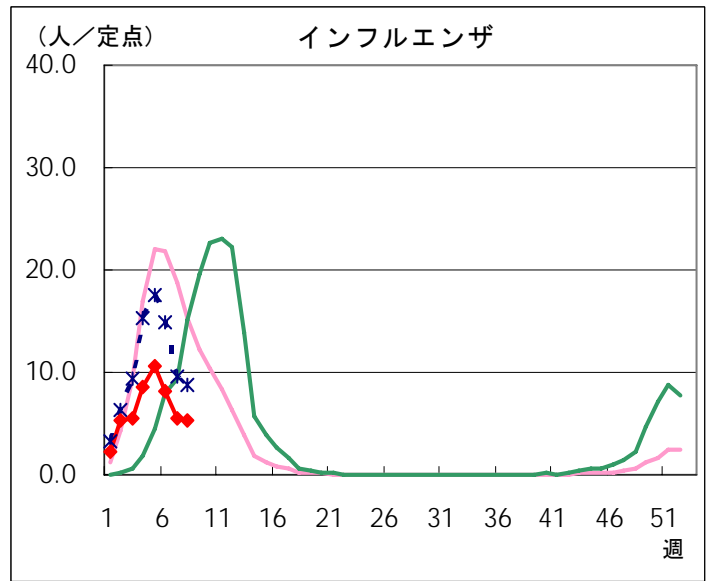
◆ 小児科定点



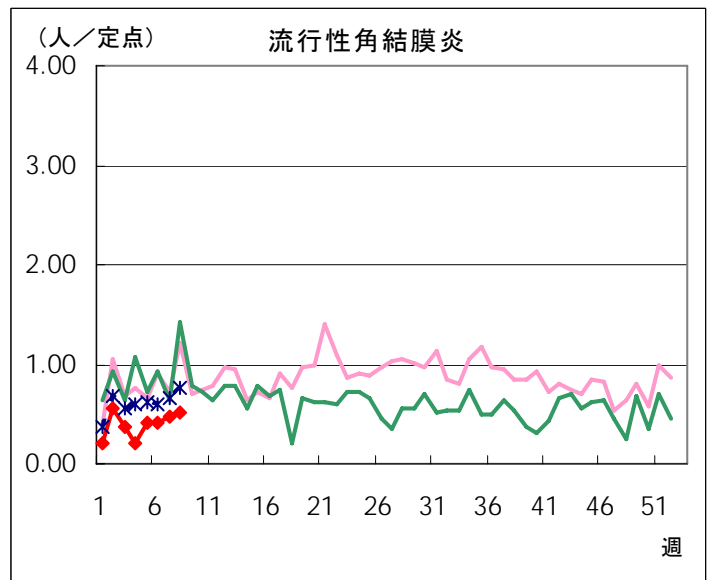
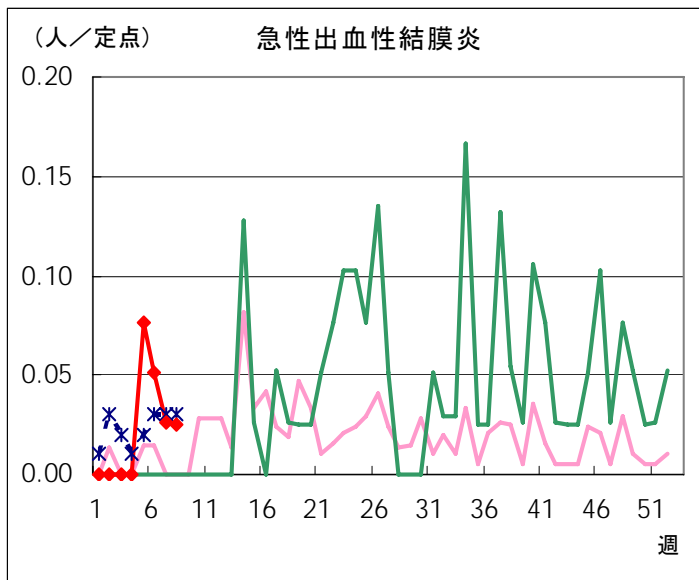




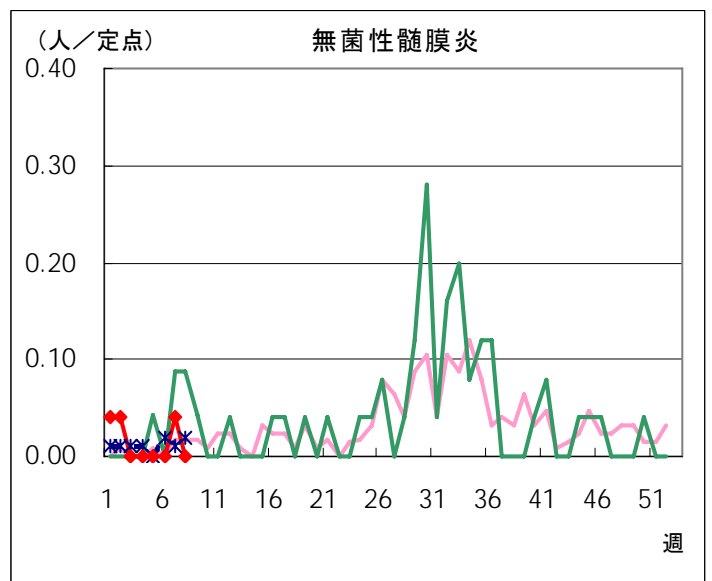
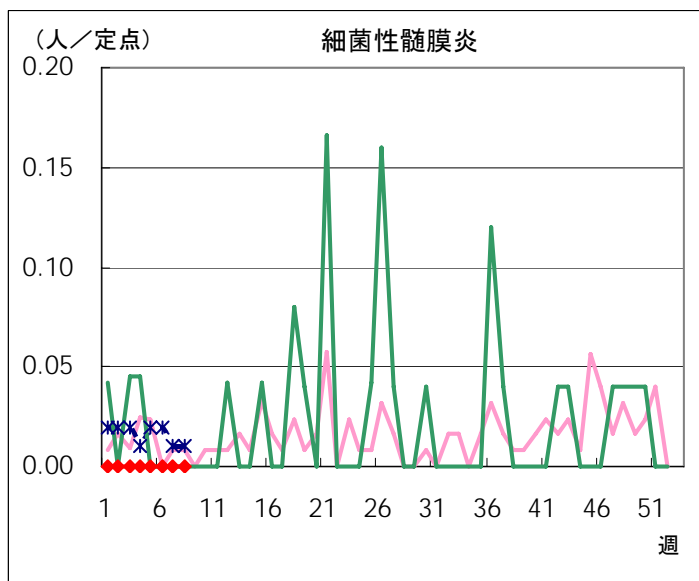
◆ インフルエンザ定点

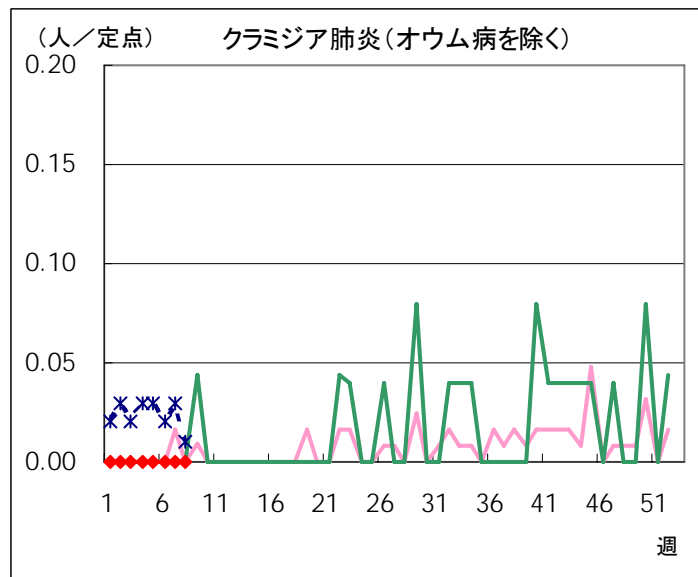
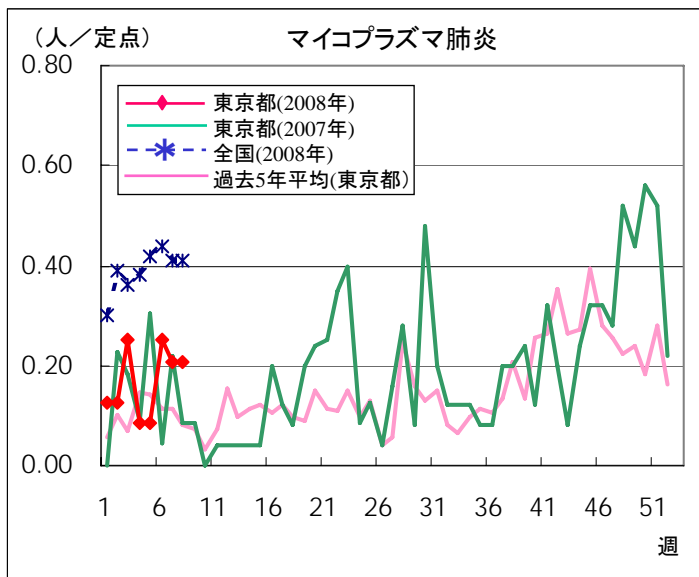


◆ 眼科定点

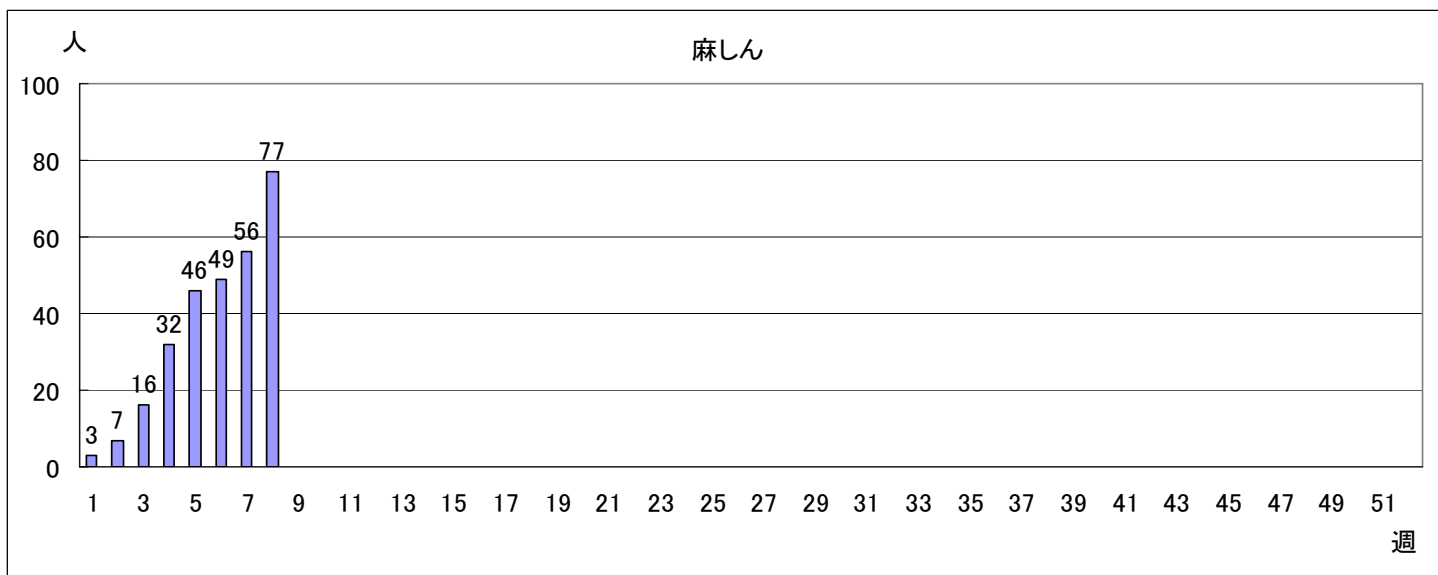


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2008年8週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	11		
	6		
新宿区	3		
	10		
	1	2	
台東	5	1	
墨田区	8		
品川区	3		
	1		
	1		
目黒区			患者6名、B型は7歳女兒。
	7		
大田区	3		ワクチン接種済み。 患者2名、B型は5歳女兒
	6		
	6	2	
	1		
		1	
世田谷	12		
	1		
	4		
渋谷区	2		
	3		
中野区	3	2	迅速診断キットで陰性の発熱者も結構います。 明らかに患者数は減少しております。
	2		
	3		
	19	3	
	3		
	4		

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
池袋			患者6名、3名はワクチン接種済み。
	2		
	9	1	
	6	2	
北区	7		
	1		
板橋区	2	1	
足立	5		
西多摩			患者9名、7歳女兒ワクチン2回接種済みでB型。
	15	2	
多摩立川		1	患者4名中B型1名。
	2		
多摩府中			患者2名、いずれもタミフル使用せず、神経、精神症状なし。 患者13名中B型4名 患者9名、患者さんが急減しました。
		4	
多摩小平	14		患者7名、急速に終息しつつあるようです。今後、B型が出るでしょうか。
	18	2	
	4		
	8	4	
	5		
	3	1	
八王子市	14		
	19		
	2		
	3		
	2		
	11		
	1		

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
2/4	皮膚筋炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス	遺伝子
2/5	咽頭炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
2/7	肺炎 喘息	2	咽頭拭い液	単純ヘルペスウイルス	
2/8	感染性嘔吐下痢症	40	糞便	サポウイルス	
2/8	ウイルス性発しん	7	咽頭拭い液	パルボウイルスB19	
2/8	けいれん重積	10M	髄液	ヒトヘルペスウイルス6型	
2/8	無熱性けいれん	6M	糞便	ライノウイルス	
2/9	急性胃腸炎	9M	直腸拭い液	アデノウイルス	
2/12	不明発しん症	40	咽頭拭い液	アデノウイルス	
2/12	脳炎	0	血液	単純ヘルペスウイルス1型	
2/12	顎下リンパ節腫大	5	咽頭拭い液	ライノウイルス EBウイルス	
2/12	インフルエンザ	33	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
2/12	インフルエンザ	1	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
2/13	インフルエンザ	7	鼻汁	インフルエンザウイルスB型	
2/13	熱性けいれん重積	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型 インフルエンザウイルスB型	
2/13	インフルエンザ	51	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
2/13	インフルエンザ	1	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
2/13	インフルエンザ	32	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
2/14	不明発しん症	5	咽頭拭い液	アデノウイルス	
2/14	気管支炎	6	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型	
2/14	流行性耳下腺炎	9	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
2/14	流行性耳下腺炎	8	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
2/14	急性上気道炎	7	咽頭拭い液	ライノウイルス	
2/14	急性気管支炎	6M	鼻汁	ライノウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
2/14	急性胃腸炎	2	糞便	ロタウイルス	抗体
2/14	インフルエンザ	13	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	遺伝子
2/14	インフルエンザ	33	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型	
2/15	ウイルス性発しん症	2	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
2/15	急性上気道炎 インフルエンザ	3	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型	
2/15	急性脳症	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス ヒトヘルペスウイルス6型	
2/15	胃腸炎	12	糞便	ノロウイルス	
2/15	発しん	3	咽頭拭い液	風しんウイルス	
2/15	急性胃腸炎	9M	直腸拭い液	ロタウイルス ノロウイルス アデノウイルス	
記載無し	RSウイルス肺炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	遺伝子
記載無し	胃腸炎 けいれん	1	髄液	エンテロウイルス	

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2007/2008年							
		51	52+1	2	3	4	5	6	7
ウイルス	アデノウイルス	10	1	2	3	5	5	9	6
	ライノウイルス	1	3	2	2	2	2	2	7
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	2		1			1	5	2
	単純ヘルペスウイルス		1		1				2
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	2	1		2		1	4	4
	EBウイルス	2	1		3	1	2	2	1
	サイトメガロウイルス		1						
	ムンプスウイルス	1			2	1		1	2
	麻疹ウイルス							1	
	風疹ウイルス								1
	パルボウイルスB19							1	1
	RSウイルス	8	3	8			3	1	1
	ノロウイルス	8	4	5	3	3	2	4	2
	ロタウイルス				2	1	1	1	2
インフルエンザウイルスAH1	22	8	25	13	10	18	19	5	
インフルエンザウイルスAH3			1		1	3	2	1	
インフルエンザウイルスB								5	
デングウイルス									
その他のウイルス	1	2			1			1	
細菌	カンピロバクター							1	
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	その他の細菌	1							
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2007年51週～2008年7週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	182	19	53	73	26	1		9		1	2	15	14		1		126	
ウイルス	アデノウイルス	6	5	5	9			2			1	5	1				7	
	ライノウイルス	2	3	4								1	2				9	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス		2		4					1			1					3
	単純ヘルペスウイルス			1														3
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7				1							4						9
	EBウイルス												8					4
	サイトメガロウイルス																	1
	ムンプスウイルス													7				
	麻疹しんウイルス												1					
	風しんウイルス												1					
	パルボウイルスB19												2					
	RSウイルス	2	3	17	1													1
	ノロウイルス			1	28													2
	ロタウイルス				7													
インフルエンザウイルスAH1	118		2															
インフルエンザウイルスAH3	7	1																
インフルエンザウイルスB	3		1														1	
デングウイルス																		
その他のウイルス			2	3														
細菌	カンピロバクター				1													
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌																	
	その他の細菌										1							
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

ペニシリン耐性肺炎球菌（PRSP）感染症は五類感染症の定点把握疾患である。肺炎球菌は市中肺炎の原因菌として最も頻度が高く、中でも高齢者で重要であるほか、中耳炎、副鼻腔炎、敗血症、髄膜炎などを起こす。近年ペニシリン薬をはじめ多くの抗菌薬に耐性を示す PRSP が世界的に増加しているが、わが国でも例外ではなく、肺炎球菌の 50%以上の株がペニシリン系薬に耐性（検査基準ペニシリン G の MIC \geq 0.125 μ g/ml）を示し、成人の呼吸器感染症の 60%を占めている。

PRSP 感染症は免疫学的には冬期～春期に多くみられ、感染経路は主に飛沫感染、嚥下性感染で潜伏期間は病態で異なる。臨床症状は市中肺炎の多くは大葉性肺炎の症状を呈し、慢性気道疾患に続発する急性増悪例には咳嗽、痰が増加する。また耳鼻科感染症では中耳炎や副鼻腔炎症状を呈し、全身性感染症では敗血症や髄膜炎の原因となる。

診断の確定には炎症所見に加えて、病原診断として病巣部位、例えば、喀痰（その他、血液、髄液、尿など）からの肺炎球菌の分離培養（薬剤感受性試験）と本菌の尿中抗原の検出がある。鑑別疾患として発熱疾患以外ペニシリン感受性肺炎球菌（PSSP）感染症がある。治療は中等症迄の呼吸器感染症にはペニシリンの大量投与、ケトライド系薬、ニューキノロン薬を用い、中耳炎、副鼻腔炎にはケトライド系、ニューキノロン系、カルバペネム系薬を、また重症肺炎、敗血症、髄膜炎にはカルバペネムとアミノ配糖体系の併用など。またケトライド系はマクロライド耐性菌にも有効。加えて肺炎球菌の予防対策に多価ワクチンの投与も試みられている。

（文責 （財）性の健康医学財団 理事長 松田静治）